

● 環境省からのお知らせ ●

「いいたて便り」を発行します

環境省では、飯舘村の長泥地区において、除去土壌に対する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行っています。環境再生に向けた進捗状況を「いいたて便り」全4回、新聞、電車内中吊り、ポスターなどでご報告しますのでぜひご覧ください。※2020年3月まで毎月1回の発行を予定しています。

ポスター



いわき経済新聞、TOKYO FM・ふくしまFMで「ふくしまみちさがし」が紹介されます

環境再生プラザが主催するモニターツアー「ふくしまみちさがし情熱がっこう」は、9月に「浪江 Another Sky編」、10月に「阿武隈山地Footpath編」、12月に「南相馬Town Planning編」を開校し、多くの方に参加いただきました。参加者が実際に現地に訪れ、取材した内容をまとめた記事が、インターネットメディア「いわき経済新聞(<https://iwaki.keizai.biz/>)」に掲載されます。ぜひご覧ください。



TOKYO FMのラジオ番組「Hand in Hand」で、パーソナリティの高橋万里恵さんが実際に「南相馬Town Planning編」に参加された時のお話を聴くことができます。FMラジオ、スマートフォン・タブレット、パソコンなどでお聴きください。
 ■オンエア日時:2020年1月25日(土)8:00~8:25 詳しくはホームページ(<https://www.tfm.co.jp/hand/>)をご覧ください。
 ※2020年2月16日(日)9:30~9:55には、ふくしまFMでも放送されますのでぜひお聴き逃しなく！

「連続・環境勉強会in福島～ふくしま発・日本の未来を描く～」開催

環境省では「環境省とみんなで語ろう！環境政策の最前線と福島の未来へのチャレンジ」として、毎月1回勉強会を開催しています。環境省の現役職員が環境政策の最前線について話題提供するとともに、震災と原発事故から再生する福島にフォーカスし、脱炭素、資源循環、自然共生の視点から福島の未来を参加者とともに考えていきます。

第2回は「環境省の重点施策2020」をテーマに、環境省令和2年度の主要予算(案)などを紹介するとともに、福島地方環境事務所の今後の課題や期待される取り組みについて、会場の皆さまと考えていきます。ぜひお越しください。

- 第2回: 2020年1月21日(火)「環境省の重点政策2020」 <参加に関するお問い合わせ> 福島地方環境事務所 未来志向チーム
- 第3回: 2020年2月25日(火)「気候変動枠組条約COP25と我が国の長期戦略」 参加申込みはホームページ(<https://www.env.go.jp/press/107560.html>)をご覧ください。 ☎ 024-563-5184

環境省の情報発信拠点

● 中間貯蔵工事情報センター



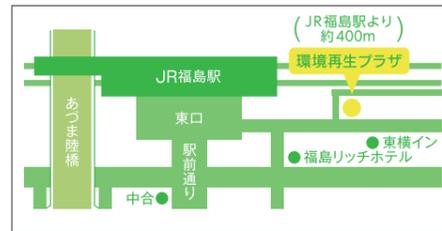
- 所在地 福島県双葉郡大熊町 大字小入野字向畑 256
 - 開館時間 10:00 ~ 16:00
 - 休館日 日曜日・月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
 - 電話番号 0240-25-8377
- 中間貯蔵施設工事について紹介しています。毎月バスによる中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

● 特定廃棄物埋立情報館 リプルんふくしま



- 所在地 福島県双葉郡富岡町 大字上郡山字太田 526-7
 - 開館時間 9:00 ~ 17:00
 - 休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
 - 電話番号 0240-23-7781
- 特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

● 環境再生プラザ



- 所在地 福島県福島市米町 1-31 1階
 - 開館時間 10:00 ~ 17:00
 - 休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
 - 電話番号 024-529-5668
- 福島の環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

ふくしま環境再生 Vol.9



「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

実証事業での再生資材化

環境省では、飯舘村内の仮置場から運んだ除去土壌を再生資材化して利用する実証事業を進めています。今回は、再生資材化と、農地造成を行い資源作物を試験栽培している取り組みについてご紹介します。

ストックヤード

仮置場から搬入された除去土壌の放射能濃度を測定し、1キログラムあたり5,000ベクレル以下の除去土壌を選別して再生資材化施設に運搬します。



重機式放射能簡易計測装置「Siki」

大型土のう袋ごとに、放射線量および重量を測定することにより放射能濃度を推計する装置

再生資材化施設

除去土壌から異物(枝や木、石など)を取り除き、放射能濃度を確認します。



再生資材化



除去土壌



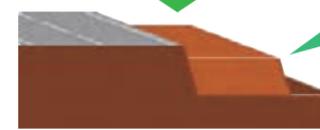
再生資材

農地造成エリア

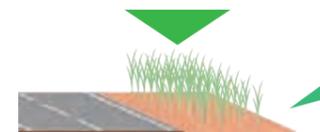
再生資材と汚染されていない土壌により盛土を造成して試験栽培を行っています。



① 再生資材を利用し盛土します。実証事業では盛土高さ30cm毎に締固めを行いました。



② 汚染されていない遮へい土を使って再生資材を50cmの厚さで覆います。その上で試験栽培を行います。



● 造成した農地での試験(露地栽培)

再生資材と汚染されていない土で造成された盛土の上では、バイオマス発電のための資源として期待されるジャイアントミスカンサスなどの資源作物を栽培しています。



盛土の施工の様子



盛土完成後の様子



露地栽培の様子

■ 作物の放射性セシウムの分析について

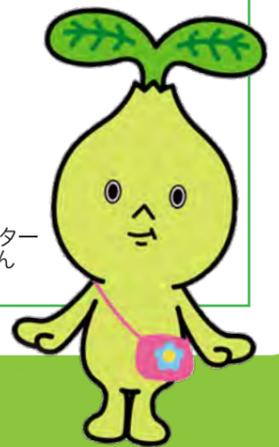
- 露地栽培のジャイアントミスカンサスの放射能濃度は1キログラムあたり4.77ベクレル(移行係数0.0031)という結果が得られました。
- これまでの安全評価での想定(放射能濃度1キログラムあたり270ベクレル、移行係数0.054)を下回る十分安全側の結果となりました。
- 仮に、1キログラムあたり8,000ベクレルの土壌および今回得られた移行係数0.0031を用いて農地造成施工者の外部被ばく量を評価すると、年間0.00002ミリシーベルトとなり、クリアランスと同じ放射線防護レベル(年間0.01ミリシーベルト)を下回っています。なお、長泥地区での実証事業では1キログラムあたり5,000ベクレル以下の再生資材を利用していることから、年間0.00002ミリシーベルトをさらに下回ると評価することができます。

■ 移行係数とは…?

移行係数とは、農作物に蓄積された放射能濃度(A)と土壌に含まれる放射能濃度(B)の比率(A/B)です。



飯舘村
公式キャラクター
イタネちゃん



Column! コラム

住民インタビュー「人が集い、定住したくなる魅力ある土地へ」

震災前から長泥地区で農業を続けてきた住民の方々の知恵やノウハウをお借りして進められている環境再生の実証事業。今回は、造成した盛土の農地やハウスでの農作業にご協力いただいている皆さんにお話を伺いました。

—実証事業を進めるうえでのご苦労は？

(清三さん) もともと長泥でトルコギキョウなどの花き農家をやっていたので栽培方法に不安はなかったけど、実証事業では肥しがない土を使うため、初めは「こんな土で花が咲くのか」と疑問もあった。でも、いろんな肥料を試したり、堆肥の量を試行錯誤しながら土づくりから始めれば立派な花が咲くことが分かった。

—どんな想いで取り組んでいますか？

(清三さん) 故郷を、「長泥」という地名をなくすわけにはいかない。親たち

が苦労しながら開拓する姿を覚えているから、なおさら簡単には捨てられねえ。我々はもう年なので、これからここに住む人の基盤を作るつなぎ役でいいと思ってやっているんだ。

(圭子さん) ここで栽培しているのは花とか資源作物です。私の考えなんですけど、やってみてから考えようという主義なので、ここで食用を育てて放射能の安全性が証明されれば他の地域の人にも除去土壌の再生利用は加速すると思うんですよね。

(誠一さん) うん、今後はもっと大きな規模で農地造成も始まるので、食用作物も含めていろいろ試してもらいたいと思う。住民目線だね。

—将来的に長泥はどんなところになって欲しいですか？

(清三さん) 整地して終わりじゃダメだ。雇用や家など生活の基盤がないと住民は戻らないし、新しい人も来ないよ。その上で、触れ合いのある賑やかな場所になってくれれば新しい住民も来ると思う。

(圭子さん) 例えばトウモロコシを焼いて売る、収穫体験や直売もできる、そんな農作物を育てるのも面白い。人を呼び込む農業を考えることも再生の一つの在り方なのかなと思うんです。

(誠一さん) 広野町のバナナ、川内村のブドウ栽培を活かしたワイン造りのように、これからはある程度規模の大きなことをして人を呼び込むようなことをしていくことが大事だと思うな。



左から鴨原清三さん、鴨原圭子さん、鴨原誠一さん